

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第41号(20121012)

発行 竹田 幸男



10月例会開催

今月は市民文化祭、大阪アマチュア映像祭、ふれあいフェスタを控えての例会であり、各種連絡事項が多数有りました。また撮影会、来春の作品発表会に向けての取り組みも早めの準備が必要です。

平成24年10月例会

例会の窓

日 時 平成24年10月12日(金)

13:30~16:30

場 所 寝屋川市民活動センター

4階 こども部屋

出席者 新井 天野 石田 小笠原 竹田

竹下 田淵 谷 (8名)

欠席者(1名) (50音順 敬称略)

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 市民文化祭出品の件

- ・市民文化祭は11月4日(日)10時~16時
- ・総合センター 4F視聴覚室
- ・現時点での出品者は、新井さん、谷さん。
- ・当日は9:00集合、映写準備。3回映写。
- ・鑑賞後、大阪アマチュア映像祭に移動

(2) 大阪アマチュア映像祭の件

- ・谷さんの「ありがとう」を出品(既報のとおり)
- ・プログラムを会員に配布
- ・11月4日(日)大阪市立中央図書館 5F大会議室
- ・市民文化祭と重なるが、都合をつけて多くの方の鑑賞をお願いする。

(3) ふれあいフェスタへの参加の件

- ・11月10日(土)10時~16時(当番は9時集合)
- ・参加団体(5~6団体)のPRビデオを作成・上映
- ・編集実演とQ&A
- ・前日の準備 15時より
- ・当日の当番(竹田、新井、谷)、弁当予約 竹田さん。
- ・例会室TV、田淵さんにお借りするTVを使用予定

(4) サカイ8ミリ映像フェスティバルへの返礼要員の件

- ・11月25日(日)堺市民会館 小ホール。
- ・映像寝屋川の例会日なので、当会からだれか参加して頂きたい。

(5) 映像寝屋川との合同例会・忘年会の件

- ・松心会館 2F鶴の間に於いて

- ・会 費 4,000円の予定
- ・50型TV、スピーカー・アンプ（会館に確認、石田さん）
- ・12月15日（土）10：30～12：30 合同例会
 - 12：30～14：30 忘年会
 - 14：30～17：00 カラオケ

（6）同好会の新年会の件

- ・H25年1月例会・新年会
- ・1月11日（金）
- ・がんこ寿司に於いて 新年会（要予約、田淵さん）
- ・寝屋川市民活動センター 4階 子供部屋に於いて例会
新年会終了後開催（場所予約済み）

（7）市民活動センター体験講座の件

- ・竹炭の作品、ふれあいフェスタ参加団体PRビデオ素材を活用した作品を教材とする。
- ・編集実演実施も検討する。
- ・講座開催を、平成25年1～2月に実施する。

（8）文化連盟展の件

- ・25年2月10日（日）
- ・映像協会として出品（アルカスホール）
- ・持ち時間30分（7分×4作品程度を予定）
- ・作品は、これまでの大阪アマチュア映像祭出品作品から選考する。
- ・入場券は千円位になると思われるが、その場合補助をして会員は500円程度で入れるよう考慮する。入場料と考えず文化連盟への賛助のつもりで参加して欲しい。

（9）第6回ビデオ作品発表会

- ・10周年記念発表会
- ・平成25年4月20日（土）実施で推進する。
- ・10月に会場、打ち上げ会場要予約（10/20、田淵さん）
- ・1月例会から出品作映写
- ・2月例会で出品作確定
- ・3月中にプログラム作成が必要 プログラムデザイン募集
3月末松愛会会報に折込
3月例会でプログラム配布

(1 0) 撮影会プロジェクトチーム (天野さん、小笠原さん)

- ・日帰りの撮影会で検討し、来月の例会で提案する。
- ・推薦する企画があれば、是非ご提案いただきたい。

(1 1) 作品モニター用テレビ購入の件

- ・37インチで6万円弱の手頃なものがある。
- ・例会会場に預かりとして置かせて貰える。
- ・破損した場合の責任は基本的に当会。保険の付与を検討。
- ・新年度までには購入したい考えで意思疎通を図った。

(1 2) 「NVC Monthly」の記事執筆者の件

- ・次回担当 新井さん。

2 . 作品発表

(1) 「えるちゃん」 新井さん 8分

- ・ふれあいフェスタ参加団体PRビデオ、L-Lワールド(株)のPR
- ・施設の朝から夕方までの一日の活動をまとめた作品
- ・2分ぐらい短縮して、6分位でまとめたい。

(2) 「ゆうちゃん」 竹下さん 10分

- ・ハイビジョン作品への初挑戦作品
- ・SDHCカードへエクスポートしたものをビデオカメラで映写する。
- ・編集ソフトに慣れていないため、試行錯誤の連続であった。が、結果、この例会に間に合わせる目的を果たすことができた。

(3) 「同一映像を使つての作品作り」勉強会

- ・同じ人の撮影映像を使って、ナレーター、BGM、シーンの編集を変えた複数の作品を比較鑑賞する勉強会を行った。映像は映像寝屋川の有志作品。
- ・全く違った映像のように思え、ナレーター、BGMの選択を考えることが、作品づくりの大きな要素であることを納得。
- ・シーンの順番を変え、ナレーション、ナレーター、BGMを変えることが、全く別の作品になる要素であると理解できた。

3 . 次回例会

- ・11月16日(金)13:30~
- ・寝屋川市市民活動センター 4階 こども部屋
- ・11月例会 カメラ担当:竹下さん。



私 と 映 画 4

－ 洋画についての感想 －

新井正直

まず、タイトルのことですが、以前、邦画は、日本映画で、洋画は西洋映画とされて来ましたが、近年アジア映画が多くなり、特別にアジア映画の分類が追加されました。

私たちは、当時〔1958～1968〕、会社のレクリエーションで、大画面映画〔十戒とベン・ハーと2001年宇宙の旅〕を難波・OS劇場で感動大作映画として、観賞しました。

これらの映画の日本公開が十戒〔1958〕では、紅海を割り主人公らが歩いて渡ることができたシーン。またベン・ハー〔1960〕では、主人公が一人乗りの馬車で、競技し、相手は車輪に鋭いキリ状のものが付けてあり、主人公の車輪を破壊した〔ギリシャの戦車〕といわれたシーン、また2001年の宇宙の旅〔1968〕では、史上最高の人工知能HAL（ハル）9000型 コンピュータの反逆で地球に帰還できなくなる事が記憶に残っています。

但し、監督・俳優の名前は、記憶にありませんでした。

私が録画した映画は、洋画〔アジア映画も含む〕と邦画〔日本映画〕です。約5000～6000枚のDVD〔一部ドラマを含んでいます〕が有りますが十戒は無く、ベン・ハー〔212分〕と2001年宇宙の旅〔141分〕があり、私の記憶を確めるため、DVDを2枚観ました。

ベン・ハーのあらすじは、

ローマ軍が、エルサレムに向かっている時、司令官が派遣され、名前はメッサラで 新任を祝いに来たのは、ユダヤの王族ベン・ハーであった。

メッサラはベン・ハーの屋敷で、ベン・ハーに反抗者を密告するように迫るが、ベン・ハーは拒否し、そのことで二人の間に亀裂を生じた。

新任のグラトゥス総督が、ローマの部隊を連れエルサレムに入り、総督の馬がハー家の真下に来た時、ベン・ハーの妹が触れた瓦が外れて滑り落ち、総督の馬の近くに落ちた。総督への事件があったことで、ベン・ハーは総督暗殺未遂の濡れ衣をきせられる。

メッサラは、ベン・ハーの一家3人を逮捕し、ベン・ハーの拒否の仕返しにベン・ハーの母と妹は地下牢に、ベン・ハー自身は奴隷としてローマ軍船へ送られた。ガレー船に乗り罪人の列にベン・ハーがいた。ナザレの地に来た時、

咽喉が渴ききっていたベン・ハーに近づき、水を差し伸べた人がいて、水を飲みほした。

数年後、ベン・ハーは海戦で、司令官アリウスの命を救い、奴隷の身分から解放されアリウスの養子になった。

それから、ベン・ハーは戦車競争の騎手として名を馳せた。ベン・ハーは4年ぶりに祖国の地を踏んだ。友達が、近々エルサレムで行われる戦車競争に出場させる為、馬の調教をしていた。ベン・ハーに騎手として出場して欲しいと依頼した。ベン・ハーには母と妹を探し出すことの方が先決であり、申し出を断りエルサレムに向かった。母と妹の消息は依然不明であった。

ベン・ハーは、ローマのアリウス2世として、メッサラのもとへ単身乗り込んだ。ベン・ハーはメッサラに母と妹をすぐに探し出すよう脅した。メッサラは、すぐに部下に命じ地下牢を調べさせた。母と妹は、業病（なおらない重い病気）の谷に送られる前に、ハー家に立ち寄った。ハー家の管理者に彼女らは地下牢で死んだと告げてほしいと頼んだ。

ベン・ハーは、母と妹が死んだという報に涙し、メッサラへの復讐の鬼となり、仇を討つことを誓い、大戦車競争に出場し、メッサラを破った。

重傷を負ったメッサラは、母と妹は業病の谷にいるとベン・ハーに告げた。業病の谷からの帰り道、丘の上に人々が歩いて行く、間違いなく神の御子だと言われたキリストの反逆罪裁判が行われ、死刑の宣告がされた。十字架を背負ったキリストが、目の前をすぎ、その人の顔を見て、かつて自分に水を恵んでくれた人だった事を知る。

2001年の宇宙の旅のあらすじは、

遠い昔、黒い石板のような謎の物体「モノリス」が、ヒトザルたちの前に出現する。やがて一匹のヒトザルが謎の物体の影響を受け、動物の骨を道具・武器として使うことを覚えた。獣を倒し多くの食物を手に入れられるようになったヒトザルは、反目するグループの群れに対しても武器を使用して殺害し、水場争いにも勝利していた。

時は過ぎ、月に人類が住むようになった時代、アメリカ合衆国宇宙評議会のヘイウッド・フロイド博士は、月で発掘された謎の物体「モノリス」を極秘に調査するため、月面基地に向かった。400万年ぶりに太陽光を浴びた「モノリス」は強力な信号を木星に発した。

木星使節として18か月後、宇宙船ディスカバリー号は、木星探査の途上にあった。乗組員は、船長のデビッド・ボーマンとフランク・プールら5名の人間（ボーマンとプール以外の3名は出発前から人工冬眠中）と、史上最高の人工知能 HAL（ハル）9000型コンピュータであった。

順調に進んでいた飛行の途上ハルは、ボーマン船長にこの探査計画に疑問を抱いている事を打ち明ける。その直後ハルは、船の故障を告げたが、実際には問題がなかった。ふたりはハルの異常を疑い、その思考部を停止させるべく話しあったが、これをハルが察知した。

ハルが、乗組員の殺害を決行して、プールは船外活動中に宇宙服を破壊され、人工冬眠中の 3人は、生命維持装置を切られてしまう。

唯一生き残ったボーマン船長はハルの思考部を停止させ、探査の目的である「モノリス」の件を知ることになる。

ひとり探査を続行した彼は、木星の衛星軌道上で巨大な「モノリス」と遭遇し進化を遂げる。そして木星・無限の宇宙の彼方へ。

各映画とも、感動する壮大なストーリーがあり、シーンも有りましたが、約五十年も経過した私の記憶に間違いのないことを、確認しました。

良い映画は、断片的ですが、人の記憶に残ることも確認できました。

これらの映画制作費は、\$13,500,000 ~ \$10,500,000で、興行収入〔全世界〕は、制作費の 5 ~ 19 倍で、大成功だったようです。

話は変わりますが、ケーブルテレビやテレビ等から録画しますが、番組表や新聞の映画解説とか、予告編から映画を選び、録画して観ると、期待はずれの作品や期待以上の作品も沢山あります。

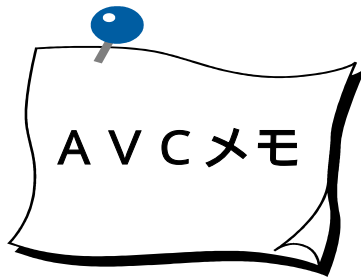
また、監督や主演俳優から選んだ場合と話題になった映画は、ほぼ期待とおりの内容になっていました。永年記憶に残る映画は、非常に少ないです。

ケーブルテレビやテレビで放映されず、DVDとして販売される映画やドラマもあります。

現在までに、録画した中で、話題になった映画のタイトルは、ET・ヴェニス
の商人・風とともに去りぬ・王様と私・クレオパトラ・ウエストサイド物語
・タイタニック・ハムレット・羊たちの沈黙・トロイ・チャプリンのモダン
タイムス等の映画・戦争映画・西部劇映画など、あげればきりがありませんが、
DVDとして持っています。

タイトル名は、記憶に有りますが、内容までは、思い出せなく、DVDを観るしかありません。

記憶ある映画で、ローマの休日や邦画ですが、黒部の太陽等は、NHK-BS
で放映されたかも知れませんが、私は、NHK-BSに加入していないので、録
画出来ませんでした。



フルハイビジョンのビデオカメラ

竹田 幸男

どこかの例会でフルハイビジョンビデオカメラが安くなった、2万円ぐらいで買える、という発言がありました。カタログを調べると、たしかにフルハイビジョン、と書いてあります。でも更に詳しく調べると有効画素数130～112万画素と書いてあります。

フルハイビジョンと言えは1920画素×1080万画素、掛け算して207万3,600画素になります。130万画素では足りないじゃないかという話になります。これはアップコンバートという技術があって、画素の間の部分が、どのようになっているかを計算し、その部分の画像を合成して計算して出力しているのです。本来無いものを計算で出しているのです、本当の画とはズレが出ると思われます。これが微妙なぼけになって表れるのでしょう。

ですから、カタログに「ハイビジョン！」と書いてあってもどの程度のハイビジョンか、を判断する目が無いと良い買い物が出来ないということになります。よく、ビデオクラブに入る前に駆け込みでカメラを買ってから入ってくる人がありますが、本当はカメラ無しで入って来て、入ってから目利きの人話を聞いて買うのが良いと思います。ただし目利きと言っても、単純にカタログを盲信して推薦する人もありますので、難しい面もありますが、本当の目利きに出会えるかどうか。

似たようなことが私が持っているPanasonicのハイビジョンカメラHDC-SD5にもあります。このカメラのCCDは有効画素が動画52万となっています。52万で、なんでハイビジョンだ！と思われませんが、実はこのカメラは3CCDといって、赤、緑、青の三原色を分解してそれぞれ別々の3個のCCDで取り込むようになっています。このCCDの位置、例えば緑の画素の位置を他の赤、青に比べて水平方向に半画素ずらしてやれば単純に画素数は見かけ上2倍となります。さらにこの緑の画素の位置を赤、青に比べてさらに縦方向に半画素ずらせば見かけの画素数はさらに2倍、掛け合わせて4倍になります。すなわち52万が208万になってハイビジョン画素数207万画素を上回ります。実際はこんな単純なものじゃないと思いますが、とにかく目的は達せられます。当時はこのようにしてハイビジョン画質を達成していました。

各社のカタログを見てもP社、S社とも安いランクのカメラは207万画素以下のものがあります。逆に高いランクのものでは数百万画素、なかに

は一千万画素以上のものもあります。これに対してC社のものは、過去はともあれ、現在は安いものから高いものまで207万画素で揃えています。画素数の多いのは静止画用と兼用する目的もありますが、多い画素数からダウンコンバートした方が映像がきれいだという説もあります。この辺りの見解はテレビや録画再生機器など映像機器を多く手がけて来たメーカーと静止画中心で来たメーカーの経験の差では無いかと思われませんが、アップコンバート、すなわち少ない画素の撮像素子を使って、それより多い画素を合成することは、本来画素の無い(画像データの無い)部分を計算で後から作るわけですから、このような使い方をするカメラは、余りお勧めできません。ということはきれいな映像を撮影したいなら、少なくとも有効画素数207万画素以下のハイビジョンカメラは避けた方が良いでしょう。